題材名「ピカソ『ゲルニカ』を鑑賞しよう」…〈鑑賞〉
中学校第２学年及び第３学年

【題材の目標】

・『ゲルニカ』に込められた作者の心情や表現意図などを，ピカソの人物像や作風の変遷を学びながら，自分の感動や考えなど価値意識を持って主体的に感じ取ろうとしている。【美術への関心・意欲・態度】
・様々な方向から『ゲルニカ』を見つめ洞察的な思考を重ねながら，作者の心情や表現意図を感じ，造形的な視点から考えを深めて味わっている。【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【子どもの実態（例）】

・第２学年及び第３学年では，生徒の心身の急速な発達が見られ，自我意識が強まるとともに人間としての生き方や価値観が形成されていく時期である。これに合わせて見方を広げ，美術を生活や社会，歴史などの関連で見つめ，自分の生き方とのかかわりでとらえ，鑑賞を深めることを支援していきたい。

【美術文化（例）】

・第２学年及び第３学年では，自然や美術作品，文化遺産などの鑑賞を通して，心豊かに生きることと美術との関わりを広げ，第１学年で学んだことを基に，一層深く味わうことができるようにすることが大切である。
・西洋美術については，知識として絵や画家の名前を知っている生徒もいるが，じっくりと鑑賞した経験は少ない。このような生徒たちの主体的な鑑賞を促すためにも，ピカソやゴッホなどの有名な作品を扱う機会を設け，鑑賞活動のきっかけとしたい。授業の中では，今まで自分が知り得ていた作家や絵画に対するイメージが変わったり，思いが深まったりすることで，感動や面白さが生まれるような活動を展開したい。

【言語活動（例）】

・生徒一人一人が感じ取った作品のよさや美しさなどの価値を，生徒同士で発表し，批評し合い，自分の気付かなかった作品のよさを発見するなどして，一層広く深く鑑賞することを支援していきたい。
・自分の感じたことや作品についての自分の考えを，根拠を明らかにして述べたり批評したりすることは美術の鑑賞において大切な学習である。また，自分の価値意識をもって批評するためには，自分の中に対象に対する価値を明確にもつことが前提となる。
・鑑賞は単に知識や作品の価値を学ぶための学習ではなく，知識なども活用しながら自分の中に作品に対する新しい価値をつくり出す学習であると捉えることが重要である。
・指導に当たっては，生徒たちそれぞれに異なった見方や感じ方を尊重する雰囲気をつくるとともに，作品に対する生徒の興味・関心をより高めたり，いくつかの鑑賞の視点を設定したりしながら，生徒自身の目や手，心や知で作品のよさや美しさを発見し鑑賞を深めていけるような配慮をしていきたい。

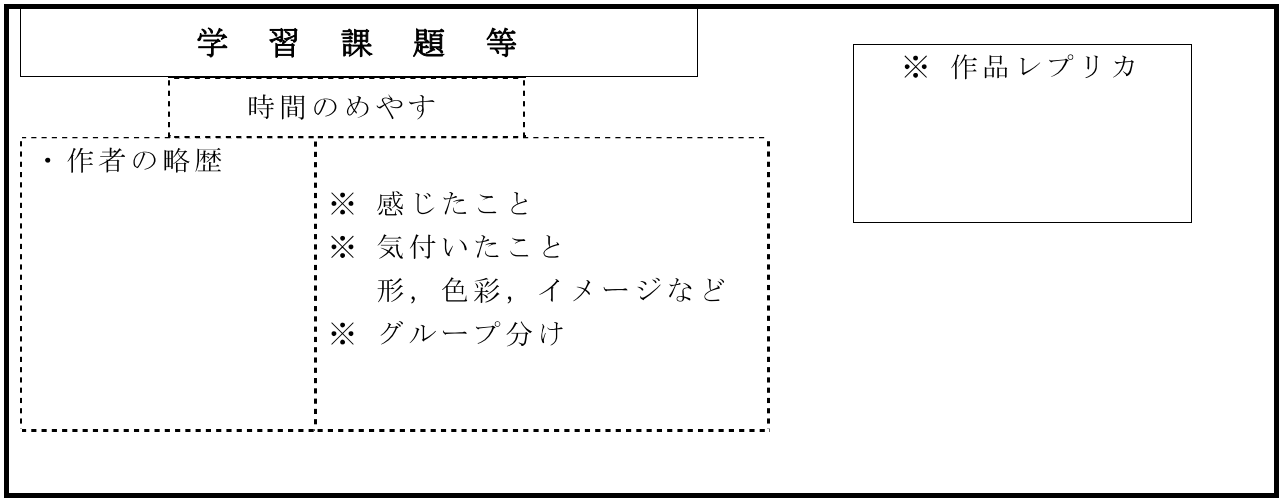
【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

鑑賞の題材，美術館等の活用

生徒が日本及び諸外国の児童生徒の作品，アジアの文化遺産などを鑑賞し，人間の成長発達と表現の変容，国などの違いによる表現の相違などについて理解を広げることは重要である。授業では，日本及び諸外国の多様な年齢層の人の作品を比較して鑑賞したり，日本の文化遺産などとの関連の深いアジアの文化遺産についても取り上げたりすることなどが考えられる。また，保存や修復の重要性，国際協力の側面なども併せて学ばせるようにする。

地域によって美術館・博物館等の施設や美術的な文化財の状況は異なるが，学校や地域の実態に応じて，実物の美術作品を鑑賞する機会が得られるようにしたり，作家や学芸員と連携したりして，可能な限り多様な鑑賞体験の場を設定するようにする。（中学校学習指導要領解説　美術編　P80より）

【板書例】



【準備物の例】

・パソコン　プロジェクター　スクリーン　作品のレプリカ　ワークシート　　など

発展的な内容例

【共同して行う活動】

鑑賞で学んだ題材を使い，学年や学級，小グループ等でそれを模写したり，新たな創作活動を行ったりするなど，共同して行う活動への発展が考えられる。

国際的なアートプロジェクトで知られる『キッズ・ゲルニカ』は，子どもが『ゲルニカ』と同じサイズのキャンバスに平和をテーマに描くというものであるが，こういったものに参加したり，文化祭のシンボル画や巨大壁画などを共同で描いたりするなどの活動が考えられる。発想，構想，計画，制作から完成に至る過程での話合いを重視し，互いの個性を生かした分担をしながら，仲間とともに創造する喜びや達成感が味わえるようにしたい。

【授業の具体例】２時間扱い

学習内容	時	評価規準	○支援や留意点等
・これらの絵が誰の絵か考える。 『初聖体拝領』 『自画像』(青の時代) 『猿をつれた軽業師の家族』 『アヴィニョンの娘たち』 『ピエロになったパウロ』 など ・色や形の特徴から，ピカソの作品を分類し，なぜ，こんなに描き方が変化したのかグループごとに考える。 ・全体で発表し合う。 ・ピカソについて知る。 ・美術ノートにピカソの心情や表現意図について，感じたことや気付いたことを書く。	1	【美術への関心・意欲・態度】 ・ピカソの作品の描かれ方の違いに興味を持ち，主体的に感じ取ろうとしている。 【鑑賞の能力】 ・ピカソの作品の色や形に着目し，それらの類似点を根拠として，グループ分けをし，表現の工夫を感じ取っている。 【鑑賞の能力】 ・ピカソの人生の出来事が，作風の変化に反映されていることに気付き，作者の心情や表現意図を感じ取ろうとしている。	○ピカソの「十代の作品」「青の時代」「バラ色の時代」「キュビズム」など作風の違う数枚の作品を並べ，作者を想像させる。 ○生徒がそれぞれの作品の表現の違いや十代の作品の高い技術に驚き，ピカソに対する関心を高めることができるようなレプリカを提示する。 ○作品数を増やし，小グループごとに，作品を年代別にグループ分けをさせる。 ○分類が思い付きにくいグループには，色や形の類似性に着目させる。ピカソの画風の変化の理由が思い付かずに困っているグループには，ピカソについての系統的な資料を提供し，考えの手掛かりを与える。 ○ピカソの紹介の VTR や資料を見せ，説明を加える。

・映し出した絵を見て，感じたことを話し合う。 ・小グループで話し合う。 ・全体で発表する。 ・『ゲルニカ』に関する資料を見る。 ・戦争の悲惨さや，戦争への怒りを，ピカソはどんな工夫で表現したのか，自分の考えを書く。 ・小グループで話し合う。 ・全体で発表する。 ・授業を振り返り，分かったことや感じたことを自分の言葉で書く。	1	【美術への関心･意欲・態度】 ・『ゲルニカ』に興味を持ち，作品に対する自分の感動や考えを主体的に感じ取ろうとしている。 【鑑賞の能力】 ・様々な角度から作品を見つめ，洞察的な思考を重ねながら，ピカソの心情や表現意図を読み取り，造形的な視点で考えを深め，味わっている。	○プロジェクターを用い，体育館の壁に原寸大のゲルニカを映し出す。 ○グループ活動では，生徒たちが感じたことを付箋紙に記入し，作品のコピーの上に貼っていくようにする。 ○鑑賞の仕方に戸惑いを感じている生徒に対しては，絵の各部分について思ったことを言葉にさせたり，描かれているものの意味を考えたりするように指導する。 ○生徒の自由な発想を出させる中で，「電球は何を表しているのだろう」など，各部分についての生徒の解釈を聞き，想像を膨らませる。 ○ピカソにとっての色彩や形が重要であると気付いた生徒の考えに着目させる。 ○感動を共有したり，様々な角度から鑑賞したりすることの楽しさや面白さを実感した生徒の感想を紹介し，まとめる。